2021年度（第 53 回）倉田奨励金

受領No. 1526

人工知能を使った裁判支援システムに対する一般市民の評価—「AI 裁判官」は受け入れられるのか?

代表研究者　綿村 英一郎　大阪大学大学院　人間科学研究科　准教授

The Public's Evaluation of Trial Support Systems Using Artificial Intelligence - Will "AI Judges" be Accepted?

Representative　Eiichiro Watamura, Graduate School of Human Sciences, Osaka University, Associate Professor

研究概要

人工知能による裁判支援システム、いわゆる「AI 裁判官」構想がある。医療診断や経営支援といった場面での AI 化は歓迎ムードであるのと対照的に、裁判官 AI に対して、人々は不安と期待が入り混じったアンビバレントな態度を抱くとされる（太田、2020）。なぜ、AI が裁判官であるときに限って、こうした不思議な態度になるのか。本研究では、AI 裁判官に対する人々のイメージにフォーカスした心理学的調査を行う。人間が打つ蕎麦の " 手打ち感 " のようなものが AI の " 機械打ち " には欠けているはずだといった信念、「機械のやることは信用できない」といった、ぼんやりした直感などを切り口に AI 裁判官のイメージを明らかにする。さらに、実際に AI が裁いたとしたらどのような感覚が生まれるのかも調査によって明らかにする。以上を通じて本研究が目指すのは、「人々は AI 裁判官を受け入れられるのだろうか？」という問いに対する答えを導き出すことにある。さらにもう一つ、これと表裏一体の目標として、本研究から社会に重要な問いかけを行いたい。すなわち「人間が裁くことの意義とは何か？」という問いである。